

1 キリスト教教理入門

- 1 1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪

- 2 7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

2 第十部 救済論

- 30章 救いの概念
- 31章 救いの先行性: 予定
- 32章 救いの始まり: 主観的側面
- 33章 救いの始まり: 客観的側面
- 34章 救いの継続と完成

3 第31章 救いの先行性: 予定

1. 予定についての相違する見方
 1. カルヴァン主義
 2. アルミニウス主義
2. 解決の示唆
3. 予定のもつ意味合い

4 序

1. 予定の教理は、最も困惑させ、最も理解しがたい教理である
2. 「予定」という用語において意味されているものを正確に定義すること

5 1. 予定についての相違する見方

カルヴァン主義

1. カルヴァンとアルミニウスの対照的な体系化
2. 全的墮落
3. 神の主権
4. 選び
5. 無条件
6. 主権的意思の表現
7. 選びと自由意志は矛盾しない
8. 遺棄の概念では多様性

6 1. 予定についての相違する見方

アルミニウス主義

1. 多くの下位層を抱えている
2. 神はすべての人が救われることを望んでおられる
3. 全人類の救いへの願い
4. すべての人は信じるのが可能である

5. 先行的恵みの付与
6. 予知の役割
7. カルヴァン主義の無条件・完全への反対
8. カルヴァン主義は宣教への情熱を否定する
9. カルヴァン主義は人間の自由意志に矛盾する

7

2. 解決の示唆

1. 救いに関する神の聖定
2. 聖書のデータの研究
3. 生まれつきの人間の救いの不可能性
4. 神の助けなしに福音に応答不可
5. 反応 - 神の前もっての決定
6. 予知の議論には説得力がない
7. 救いの普遍的提供・一般的招待は？
8. そのような状況に真の自由はあるのか

8

3. 予定のもつ意味合い

1. 神が決定されたものは実現されると確信をもちうる。
2. ある人々がキリストを拒絶するとき、私たちは私たち自身を責める必要はない。
3. 予定は、伝道と宣教を無効とはしない。
4. 恵みは完全に必要なものである。